



高齢歩行者の交通事故は道路の横断中に多く起きていますが、これは横断歩道のある場所であっても例外ではありません。

どのような事故が多いのでしょうか。また、事故を防ぐためのポイントは何でしょうか。横断歩道付近で起きる、高齢歩行者の事故について見ていきましょう。

## ■ 近道せずに、横断歩道まで行ってから横断



- ・きちんと横断歩道まで行かずに、近道してその手前から横断を始めるのは危険です。横断歩道上には注意を払っていても、その前後に対しては注意がおろそかになっているドライバーもいます。

- ・歩くのがおっくうで……と面倒くさがってはいけません。近くに横断歩道があるときは、少し遠回りになっても、必ず横断歩道まで行って、右・左を確認してから横断しましょう。



## ■ 信号機のある横断歩道では…



- ・青信号が点滅を始めたら新たに横断を始めてはいけません。横断の途中で赤信号に変わってしまう可能性が高く、危険です。次の青信号を待ちましょう。

- ・車線数が多く、幅の広い道路では、青信号が点滅する前でも、途中からの横断は危険な場合もあります。赤信号になる前に渡り切れるかどうか、自分の歩く速さを考えて、慎重に判断しましょう。

- ・高齢になると、一般的に、歩き方が遅くなり、危険を避けるための行動も取りづらくなります。それらを踏まえて、余裕をもった行動を心がけて下さい。

## ■ 横断歩道であっても油断禁物



- ・横断歩道であっても、横断中は油断禁物。曲がってくる車などに気をつけましょう。通過車両の陰になったりして、ドライバーから歩行者が見えていないこともあります。

- ・横断歩道だから車は止まってくれるはず、と信じ切ってしまうのは危険です。ドライバーがこちらに気づいているか、注意しながら行動しましょう。ドライバーの目を見て確認する「アイコンタクト」が効果的です。



交通心理士 島崎敢の

ここが **カン** どころ！

学習心理学では、たまたまうまくいった行動は繰り返すようになり、失敗した行動はやめることがわかっています。この法則を交通に当てはめれば、多少ルールを破っても、事故に遭うことは稀なので、失敗は学習されず、次第に危険な行動が繰り返されることとなります。これは人間を含めた動物の基本特性なので、自分もそうなりがちなことをよく理解し、意識して安全な行動をして下さい。

監修：主幹総合交通心理士 島崎 敢

千葉エデュケーショナル株式会社  
CHIBA-EDU.CO.JP